

- 主な内容
- 1~3……市民広報特派員レポート
 - 3……かがやき催物、リバーナホール催物、国津の杜の行事
 - 4……二次救急実施病院、ひまわり、やなせ宿催し

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp ㊚http://www.city.nabari.lg.jp



伊賀勢と織田軍の戦い 「天正伊賀の乱」

中世、市内に城が築かれた当時の時代背景を知るため、「天正伊賀の乱」について、伊賀中世城館調査会会長の松鹿 昭二さんに話を聞きました。

**信長の重臣たちも参戦した
第2次天正伊賀の乱**

天正6年(1578年)織田信長の次男である、北畠(織田)信雄は、伊賀攻めの拠点となる丸山城(伊賀市下神戸)の築城を始めましたが、完成間近に伊賀勢が襲撃し、陥落。翌年には、1万の軍勢で伊賀に入ったものの、山中などで待ち伏せ攻撃にあい、敗走しました。このように、伊賀勢は奇襲や夜襲を得意としていたようです。この戦いで信雄は、重臣の柘植三郎左衛門を失いました。これが、第1次天正伊賀の乱です。伊賀攻めを信長に報告していません。このことを知った信長は、信雄を厳しく責めました。

天正9年(1581年)、織田軍4万数千人の軍勢が、伊賀への入口各所から攻め込みました(第2次天正伊賀の乱)。これは、信長が「伊賀は山国ではあるが他の戦国武将たちと手を組まれてはやっかい。伊賀を放つてはおけない」と感じたからではないでしょうか。

この伊賀攻めには、滝川一益や、後の名張藤堂家初代となる藤堂高吉の父である丹羽長秀など織田信長の重臣たちが数多く参戦しています。

やはり多勢に無勢、織田軍は、ほどなく伊賀を制圧しますが、最後に赤目にある「柏原城」に伊賀各地から駆け込んだ老若男女総勢約1600人が籠城して抵抗しました。これに対し、織田軍の兵の駐屯などの拠点になったのが下小

波田にある「滝川氏城」です。

今も残る信長への憎悪の念

この戦いは、伊賀勢の降伏により幕を閉じますが、抵抗の拠点となった神社・お寺はもちろん数多くの建物が焼かれ、たくさんの方が殺されました。伊賀の人たちには、織田信長に対する強い憎悪の念が残ります。

第2次天正伊賀の乱は、信長が明智光秀の謀反により命を落とした「本能寺の変」の1年前のことでした。

信長が討たれたという知らせを聞いた伊賀の人はとても喜んだようです。現在も、盆に明智光秀にお灯明をあげる意味で玄関や縁側に提灯(明智提灯)を灯す家があります。

2・3ページへ続く

テーマ

市民広報 特派員 レポート

リポーター
市民広報特派員
原 諒馬くん
(北中学校3年)



小学生の夏休みの自由研究で、市内の歴史を調べるうちに、市内に中世に築かれた城がたくさんあることを知りました。中学に入っても自由研究で伊賀市内のお城について取り上げました。

2月に父親から「広報なばりで、広報特派員を募集しているよ」と教えられ、広報特派員制度を知りました。家族も協力してくれると言ってくれたので、応募しました。

今回のレポートでは、伊賀地域の中世城館を調査している松鹿昭二さんに当時の歴史についてお聞きし、赤目町柏原区長の富森一弥さん、市教育委員会の門田了三さんには、現地で城跡について、教えていただきました。

このレポートで多くの市民の皆さんに地元歴史を知ってもらい、興味を持っていただけたら嬉しいです。



伊賀の城をテーマに作成した自由研究

市民広報特派員制度…市民参加の広報紙づくりを行うため、平成4年から実施している制度。のべ145人の市民が参加。原諒馬くんは、最年少市民広報特派員になります。